

平成30年度 議会運営委員会行政視察報告書

議会運営委員会

委員長 金 厚 有 豊

1 視察期間 平成30年10月4日(木)から10月5日(金)まで

2 視察先及び視察事項

(1) 10月4日(木) 宇都宮市

「討論について」

「決算審査について」

「委員会活動の活発化について」

(2) 10月5日(金) 戸田市

「決算審査について」

「委員会活動の活発化について」

3 視察参加委員

委員長 金厚 有豊

委員 舎川 智也

〃 江西 照康

〃 東 篤

〃 成田 光雄

〃 横野 昭

〃 高田 重信

〃 村家 博

〃 柞山 数男

4 随行職員

議事調査課長代理 石黒 隆司

議事調査課主任 平野 霞

5 視察概要

(1) 視察の目的

・ 討論について

本市では、討論の際にその内容が議題外にわたり長時間に及ぶことがしばしばあった。

それに伴い、平成30年6月の議会運営委員会において、議会運営に関する申合せ事項に「討論は、良識に基づき、簡潔にして要領を得た形で行うものとする」と明記したところである。

そこで、時間制限など本市では設けていないルールの下で運営している宇都宮市議会の討論の方法について視察し、本市における今後の議会運営の参考とするもの。

・ 決算審査について

本市では9月定例会において決算議案が上程され、定例会議最終日に一般・特別会計決算特別委員会及び企業会計決算特別委員会を設置の上、これらに案件を付託し、閉会中の継続審査としている。その後、10月から11月にかけて審査を行い、12月定例会最終日に採決を行っている。しかし、それでは決算審査の内容を翌年度予算に反映できないのではないかという課題が指摘されている。

そこで、9月定例会において上程から審査、採決までを行っている両市を視察することで、本市の決算審査の参考とするもの。

・ 委員会活動の活発化について

本市では主に定例会中に付託された議案の審査のほか、閉会中には所管事項に関する調査・研究のため、県外や県内の先進事例などの視察を行っている。

今年度は厚生委員会において歯科口腔条例の検討について協議を行ったが、さらに委員会全体として見ると、まだまだ限定的な活動状況となっている。

そこで、政策提言など、年間を通して委員会活動を活発に行っている両市を視察することで、本市における今後の委員会活動の参考とするもの。

(2) 取組みの概要

・ 討論について

宇都宮市では、討論の発言時間について案件の数に関わらず、1人につき10分以内とされており、継続審査申し出、議員派遣、人事案件、専決処分案件に対しては、討論は行わないこととされている。

討論の時間制限については、以前から「討論の発言時間は、案件の数に係わらず、1人につき10分以内とする」といった運用を行っており、平成11年8月の議会運営委員会において、その運用を宇都宮市議会運営委員会の運営に関する申し合わせに明文化することが了承された。

なお、平成23年3月定例会において、同一会派から2人が反対討論を行ったことに対し、閉会日前日の議会運営委員会において、会派の中で代表者1名に絞って討論するよう努力する必要がある旨の発言があり、それ以降、議案と陳情に分けて、それぞれについて案件の数に関わらず、各会派につき1人で行う例が多い。

・ 決算審査について

宇都宮市では、9月定例会で上程された後、一般質問最終日に決算審査特別委員会及び企業会計決算審査特別委員会を設置し、議案の付託、審査を経て、9月定例会閉会日に採決を行っている。

決算審査特別委員会については、6日間（正副委員長の互選を含む。審査は5日間）開催し、一般会計については、歳入は初日の午前中に、歳出は初日の午後から、款ごとに区分してそれぞれ説明・質疑を行い、特別会計については会計ごとに説明・質疑を行っている。採決は委員会審査の最終日の総括審査後に行っている。

企業会計決算審査特別委員会についても、同じく6日間（正副委員長の互選を含む。審査は5日間）開催し、3つの企業会計（水道、下水道、中央卸売市場）について説明・質疑を行っている。採決は委員会審査の最終日の総括審査後に、会計ごとに行っている。なお、企業会計決算審査特別委員会においては、決算の対象年度中に行われた施設や設備の工事について、現地調査を行っている。

特別委員会を設置して審査する体制については昭和31年6月の議会運営委員会で決定され、現在に至っている。

・ 委員会活動の活発化について

宇都宮市では、平成15年度以降、必要に応じて27の調査特別委員会が設置され、報告書を作成・配布し、本会議において報告を実施している。直近では、平成29年6月までスポーツ・文化振興調査特別委員会及び総合計画調査特別委員会が設置されていた。

各調査特別委員会における具体的な活動としては、付託調査事項について調査・研究、先進都市の視察等を行い、提言をとりまとめ、市長等へ報告書を提出している。

(3) 所感

〔金厚委員長〕

討論については、本市議会でも本来あるべき簡潔に要点をとらえた討論が徹底されていないケースもしばしば見られることから、宇都宮市議会の時間制限の事例は、今後、調査・研究すべきだと感じた。

また、決算審査については、9月議会中の審査を行っていることに加えて、決算の対象年度中に行われた施設・設備の工事についての現地調査が行われており、より緻密な決算審査を行う手法として有効であり、今後の本市議会での決算審査のあり方として大いに参考にすべきである。

〔舎川委員〕

決算審査は、9月定例会で審査され同定例会閉会日に採決に至っている。

決算審査特別委員会、企業会計決算審査特別委員会ともに9月定例会一般質問最終日に設置され5日間の審査日程で審査を行っている。

一般会計の審査において、富山市では部局ごとの審査を実施しているが、宇都宮市は款ごとに区分し、款でまたがる各部局が出席して説明や質疑を行っていることから決算の流れが分かりやすく審査されている。富山市の決算審査の現状は事務事業評価の精査に質疑が集中するケースもあり、決算全体の審査ができるよう今後の課題として認識した。

〔江西委員〕

宇都宮市議会においては、討論の発言時間を、案件の数に関わらず、1人につき10分以内とする議運申し合わせがあるということである。現在の富山市においてはこれに関連する問題が議会改革検討調査会においても取り上げられたことがあるが、意見は二つに分かれ、議員の良識に従うということに収まっている。二元代表制のもと、議会と当局がそれぞれ合理的で効率よく進行することに最善を尽くすべきと考えるが、現状では議会側の統制がとれず、当局に対し非効率的な討論にお付き合いを強制している現状である。宇都宮市議会の話を聴き、今一度、基本的な原則を検証する必要があると感じた。

〔東委員〕

宇都宮市議会の決算審査は、9月定例会会期内に行い、閉会日に採決しています。今年度9月定例会を例とすると、開会日の1週間前の議会運営委員会で、一般質問を行う議員と順番を協議しています。そこから、議員への聞き取りを始められることで、当局としても一般質問に対する答弁を準備する時間が確保できます。また、決算審査をしても会期を長引かせない工夫だと言えます。富山市議会でも定例会内で決算審査をとなれば、参考になる定例会日程の組み方です。

資料としていただいた市議会報に、「政治家の寄附禁止」とのコラムがあり、金品を贈ることも求めることも禁止されていることが、記載されていました。本市の議会

報でも、年に1回はこの件について記載すべきかと思います。

〔成田委員〕

討論について、発言時間は一人につき10分以内とされている。時間制限に至った経緯について明確な回答はなかったが、討論の簡潔および明瞭という点では妥当な時間だと思う。制限時間を明記することを積極的に検討していくべきと考える。

決算審査について、9月定例会中に、決算審査特別委員会及び企業会計決算審査特別委員会を設置し採決まで行い、5日間で審査を終えている。一般会計審査日程を見ても款ごとに審査している。企業会計の現地調査など本市との違いがあり比較するのに良い視察先であった。日程や審査内容も検討課題として大変参考になった。

〔横野委員〕

決算審査について、9月議会で審査し、認定まで行っている現状を確認し、富山市においてもその方向で検討すべきである。

新年度予算に反映する観点からぜひとも取り組むべきであると感じた。公営企業会計は3月31日が出納閉鎖、一般会計は5月31日が出納整理満了日であり、決算が早く出れば9月議会での協議も可能である。

委員の選出も、9月議会当初に選考し、9月議会日程の中で決算の認定をしている。決算審査の方法については、款ごとに実施していて、予算の仕組みを理解する上においては、ある程度理解できるものと思う。

〔高田委員〕

議会運営については、討論の発言時間を10分以内としておられ、特に超過することもなく討論されており富山市議会も時間を明確にすべきと感じた。

決算審査については、9月定例会で決算審査・企業会計決算審査特別委員会が設置され審査、採決されている。特徴として、一般会計においては款ごとに区分して審査がなされ、企業会計では、決算年度の工事について現地調査が実施されているとのことで、そうした内容の効果について検証が必要と思った。

タブレットについては、1名の議員が使用しないということで、方向性がまだ定まらないとのことでした。

〔村家委員〕

宇都宮市の決算審査は9月定例会の中で5日間の審査日程で行われている。

企業会計の決算審査においては、現地調査も実施している。富山市において、現場を調査せずに審査を行うケースも見受けられることから今後提言していきたい。

討論の発言時間については、案件の数に関わらず1人につき10分以内として、議会運営の申し合わせに明記されている。富山市議会における討論のあり方については、一部、趣旨を逸脱した主義・主張があることから、今後の討論を見ながらではあるが検討していくことも必要と考える。

〔柞山委員〕

これまで、議会制度調査会を設置し平成24年3月に一般質問に一問一答方式を導入、平成24年9月より反問権の導入をしてきた。一方議会基本条例は平成25年10月に制定している。

討論は時間制限を定め10分以内とし、会派1人とし申し合わせしている。決算審査は以前より9月定例会で特別委員会を設置し本会議最終日で採決して、次年度予算に反映させており富山市議会でも改正すべきと考える。

常任委員会で年間政策テーマを決め、主に閉会中に政策議論をしている。条例や政策提言までされていないのは残念に思われる。しかし、議員の資質向上に効果的と思われる。次回の定例会開催日程を定例会最終日前日の議会運営委員会で決定し議会だよりで周知しており、一考すべきか。こうした他市の先進事例を参考に本市議会の本来あるべき議会活動に向け取り組みを進めたい。

(2) 取組みの概要

・決算審査について

戸田市では、9月定例会で上程された後、4つの各常任委員会に議案を分割付託、審査を経て、9月定例会閉会日に採決を行っている。

平成元年までは、9月定例会において上程から委員会付託まで行い、同定例会終了後、閉会中に各常任委員会での審査を行い、12月定例会の初日採決を行っていたが、それでは審査内容が次年度の予算算定に反映されないとの意見が出され、協議の結果、平成2年から審査から採決までも9月定例会中に行うこととなった。

現状の課題としては、特別委員会ではなく、各常任委員会に分割付託し、審査している状況であり、各委員会の所管の見直しを行ってはいるものの、各委員会の所管事項に偏りがあるため、均等な割振りになっていないという点がある。

・委員会活動の活発化について

戸田市では、平成21年から各常任委員会において年間活動テーマを定め、調査・研究する取組みを行っており、毎月、委員会を開催するなど活発に活動している。

なお、年間活動テーマについては、平成24年2月に制定した戸田市議会基本条例第7条第2項において「常任委員会は年間活動テーマを設定し、閉会中においても所管事務調査を実施するとともに、積極的に政策提言を行うよう努めるものとする」と規定されており、毎年、調査・研究の成果として、提言書や条例、意見書などをまとめている。

(3) 所感

〔金厚委員長〕

委員会活動の活発化が強く印象に残った。平成21年度からの取組みであり、毎年度、各常任委員会で1つ以上のテーマを決め、年間を通して、県内・県外視察や当局からのヒアリング等を実施し、最終的に提言書として当局に提出しているとのことで、本市議会としても委員会活動を活性化させることは必要だと感じているが、一方で、提言書提出後に、当局がどのように対応したかのフォローも重要であり、その辺の検証をどのように行うのかが、実施していくとした場合の問題点だろうと感じた。

〔舎川委員〕

以前は12月定例会で決算認定を行っていたが、決算審査の内容が次年度の予算に反映されないとの意見があったことから平成2年から各常任委員会に分割付託し、9月定例会中に決算審査を行うことにしている。

他方で各常任委員会は年間テーマを掲げ、閉会中も調査・研究を活発に行い、各常任委員会で提言書（通学路の安全対策や小中一貫校の設立についての提言書など）を作成し当局に提出している。当該提言書の提出が当局の予算確保に繋がっていないと

いう課題があるとのことであるが、富山市議会における委員会の活発化のモデルケースと考える。

〔江西委員〕

戸田市議会は決算審査を各常任委員会に分割付託している。また、各常任委員会では年度ごとにテーマを決め、1年間かけて調査・研究した上で提言書にまとめ、当局に提出しているとのことである。それにより、常任委員会の開催日数は多くなり、委員会の密度も高まっている。

テーマ数を絞らなければならないことや、単年度制の委員会であることから、提言の後追いがなされていないなど課題もあるが、議会における政策提言の一つの手段であり、大いに参考になった。

〔東委員〕

戸田市議会の決算審査は、平成2年から9月定例会中に、各常任委員会での分割審査、各委員長報告と討論、採決を行うようになりました。それ以前は、9月定例会終了後の閉会中に各常任委員会で審査し、12月定例会の最初に委員長報告、討論、採決を行っていました。しかし、この手順では審査内容が次年度の予算算定に反映されないとの意見が出されたことから、協議の上、現行の体制になったとのことでした。決算審査の各常任委員会での分割審査という体制について、調査・研究が必要だと感じました。

また、戸田市議会は常任委員会における年間活動テーマを定めた所管事務調査の取り組みにより、委員会活動の活発化を図っています。各常任委員会で1年間の活動テーマを定め、毎月1回委員会を開催し調査・研究することで議員の資質が高まり、さらに提言書を作成して執行部に提言することで、チーム議会として行政に対するチェック機能を高めることにつながると感じました。

〔成田委員〕

決算審査について、各常任委員会において分割審査で9月定例会中に行われている。現状での課題について、所管事項に偏りがあるため均等な割り振りができていないこと、また事業の説明を見やすくするために、各所管の資料のフォーマットの統一化などの意見を伺った。常任委員会内での審査なので、本来の議案と決算の審査に要する時間配分がどの程度とれているのか疑問が残った。

委員会活動の活発化について、毎年各委員会で調査・研究の成果として提言書や条例、意見書をまとめている。毎月1回の委員会を開催しているので、議案の審査や事業報告を受けるだけの体制から脱却し、確実に活発化していることが伺えた。

その成果を活かし、実現・予算化していくための方法を含め、検討する必要は大いにあり今後の議会運営に取り組んでいくべきと考える。

〔横野委員〕

平成2年から、決算審査を9月議会で協議し、9月に認定している。特徴的には、常任委員会に分割付託しているとのことであり、富山市でも検討すべきであると思う。以前は12月議会での認定であったが、予算に反映しにくいことから9月議会での認定に変更したとのことであった。

委員会活動について、1年間の提言を定めて、委員会審査を行っている説明を聞いたが、予算に反映されていないと聞いて何のための提言なのか疑問に感じた。委員会の方向性からすれば、提言を決めるのも方法と思うが、活かし方によっては、効果があると思う。

〔高田委員〕

決算審査については、各常任委員会に分割付託され審査し9月定例会中に討論、採決まで行われている。特徴として、各常任委員会が4日間開催され、長時間の審査も珍しくないとのこと。そうした審査体制について考慮すべきと思った。

委員会活動の活発化については、各常任委員会で年間テーマを決め、それに基づいて月1回委員会が開催され調査・研究が行われ、条例の提案や政策提言として活かされており、充実した活動にとっても感心した。今後、委員会活動の活性化を考える上で大変参考になり、議運として協議していければ良いと思った。

〔村家委員〕

平成元年までの決算審査は、9月定例会で議案等の上程から委員会付託まで行い、定例会終了後の閉会中に各常任委員会審査を経て12月定例会の最初に委員長報告と討論、採決を行っていたが、現在は9月定例会中に審査を行っている。富山市議会は11月半ばまで決算審査を実施していることから今後会派を越えて検討する必要がある。

戸田市議会は平成18年6月から本会議をライブ配信するなど先進事例も多くある。中でも常任委員会の活動は活発で年間テーマを決めて月1回の委員会を実施している。活発な委員会の開催について研究していかなければならない。

〔柞山委員〕

三浦 芳一議長より歓迎のご挨拶を頂き感謝。昭和39年東京オリンピックでボート競技会場であり、ボートのメッカとして来る東京オリンピックに大きな期待がかかる。

昭和60年に埼京線に3つの新駅ができ年々人口が増加し若者が多く、待機児童対策が喫緊の課題と伺った。

決算審査は9月定例会で常任委員会に分割付託、審査、採決する。常任委員会で年間活動テーマを定め提言書や条例、意見書をまとめている。予算など行政政策にどのように反映、成果があるのか検証することも必要ではと思われる。副議長、議会改革特別委員長も同席頂き、逆に富山市の取り組みを聞かれ説明もしたが、我々も他市の

視察に同席する積極姿勢もいるのでは。

平成30年10月4日（木）宇都宮市



平成30年10月5日（金）戸田市

